

下老袋氷川神社

市の北東部に位置する下老袋氷川神社。この神社の境内には、昭和20年代後半まで一本の椋の木があり、「脛巾様」と称し、祀られていました。昔この神様が、大宮の氷川様と戦い、敗れて帰ったとき、脛巾(すねを保護するため)に巻く布)をこの木に掛けたためといわれています。

同神社には、埼玉県の無形民俗文化財に指定されている行事が二つあります。

「老袋の弓取式」は、毎年2月11日に行われ、その年の天候を占う行事です。矢を三回射って、的の白い部分と黒い部分に当たった矢の本数を数え、これを三度繰り返します。白が多いと晴れの日が多く、黒が多いと雨の日が多いと占います。今年の結果は、天候に恵まれ、良い一年になるとのことでした。



「老袋の万作」は、豊年万作を願う、五穀豊穰(ごこくほうじょう)祝福(しゅくふく)の芸能行事です。今年(ことし)は4月11日(日)に行われます。境内に設けた舞台で、万作踊りと、笑いの要素を取り入れた万作芝居(しばい)が奉納(ほうな)されます。今年(ことし)の踊りは「下妻踊り」など。万作芝居は「焼山峠(やまやまとうげ)」が披露(ひら)されます。出かけてみては、いかがでしょうか。



世界の国から、こんにちは!



中国/焦雁さん

北京(ペキン)の出身(しゆしん)で川越(かわごえ)に住んで17年(ねん)になります。北京(ペキン)は、活気(かつき)のある緑(みどり)の多い(おおい)都市(とし)です。世界遺産(せかいいさん)が多く、見所(みどころ)がたくさんあります。故宮博物館(こきゆうはくぶつかん)の裏(うら)にある景山公園(けいざんこうえん)から博物館(はくぶつかん)を見下ろ(みおろ)すと、屋根(やね)が時間(じかん)によって違う色(いろ)に輝(かが)く景色(けいしょく)が、私(わたし)のお気に入り(きらい)です。

川越(かわごえ)は北京(ペキン)と同じよう(おな)な活気(かつき)を感じ(かん)じますね。クエアモール(クエアモール)・大正浪漫夢通り(たいしやうまんゆめどお)り、一番街(いちばんがい)と歩(ある)いていると、時代(じだい)をさかのぼる感(かん)じがして、大好き(だいす)な散歩(さんぽ)のルート(ルート)です。

中国(ちゆうごく)では、「雁(えん)」という名前(なまえ)は珍(めづ)らしいです。川越(かわごえ)では、市(し)の鳥(とり)や地名(ちめい)などでよく目(め)にするので、とても嬉(うれ)しくなります。もともと川越(かわごえ)と「縁(えん)」があつたの(の)かもしれませ(ま)ね。

国際交流課(こくさいこうりゅうか)・TEL224-5506

編集後記

どんぐり

もうすぐ4月。新年度(しんねんど)から、変わるもの(もの)があります▶広報(こうはん)の紙面(しめん)。表紙(ひょうし)をはじめ、紙面(しめん)全体のデザイン(デザイン)を一新(いちじん)することにしました。紙質(ししつ)も変わり、広報(こうはん)を手(て)にしたとき(とき)に違(ちが)いを感じ(かん)じると思(おも)います▶組織(そくし)改正(かいせい)を一部(いちぶ)行(な)い、新体制(しんたいせい)になります。市の財産(しよていざん)である歴史(れきし)・文化(ぶんか)を大切(たいせつ)にし、品格(ひんかく)のあるまちづくりを進(すす)めていきます▶入学(にゅうがく)・入社(にゅうしゃ)など、新しい生活(あたらしいせいご)がスタート。生活環境(せいごかんげい)が変わる方(かた)も多い(おおい)のでは▶気候(きこう)も暖(ぬく)かくな(な)ったと思(おも)ったら急(いそ)に寒(ひや)くな(な)ったり。何か(なに)と変化(へんげい)が多く、めまぐるしい時(とき)期(き)▶変(へ)わらないもの(もの)は、市(し)からのお知らせ(おしらせ)や市内(しちん)の出来事(きざい)を、分(わ)かりやす(やす)く見(み)やす(やす)く伝(つた)えていく気持(きもち)。また、桜(さくら)の開花(かいが)も、毎年(まいねん)変(へ)わらず待(まち)ち遠(とほ)しいもの(もの)。この広報(こうはん)が届(届)くころは、何分(なんぶん)咲(さ)くくらい(くらい)でしょうか……。